



報道機関各位

平成28年10月27日
室蘭開発建設部 広報官

北海道開発計画調査説明会を開催

～「農村の維持に関する基礎調査」「インバウンド観光の振興調査」を紹介～

室蘭開発建設部は、平成27年度に北海道開発局が実施した北海道開発計画調査の説明会を下記のとおり開催します。

本説明会は、平成27年度に実施した2件の調査に関する説明、質疑・意見交換を行うとともに、地域の課題解決に向け、調査成果の今後の広範な活用や地域の連携・協働などについて、皆さま方と検討していくことを目的に開催するものです。

なお、この調査は、北海道総合開発計画の企画、立案及び推進に必要な調査として北海道開発局が毎年度実施しています。

記

- 日時 平成28年11月10日(木) 13時30分～15時40分
- 場所 室蘭開発建設部 1階大会議室(室蘭市入江町1番地14)
- 内容 (1)北海道開発計画調査の概要
(2)北海道の人口低密度地域における農村の維持に関する基礎調査
(3)北海道における歴史・文化を活用したインバウンド観光の振興調査
- 対象者 自治体職員、農業関係者、観光業関係者 (一般の方も参加可能です)
- その他 参加を希望される方は、11月7日(月)までに、以下のいずれかの方法で、問合せ先の地域振興対策室までご連絡ください。
(電話)0143-25-7053
(FAX)0143-22-8842
(E-mail)hkd-mr-chiikisinko@ml.mlit.go.jp

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部

地域振興対策室 地域振興対策官 木全 裕示 (0143)25-7053

地域振興対策室 地域振興専門官 北村 陽子 (0143)25-7053

室蘭開発建設部ホームページアドレス <http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/>

北海道開発計画調査説明会 参加申込書

FAX : 0143-22-8842

室蘭開発建設部 地域振興対策室 行

所属	
氏名	
連絡先	

※ご記入いただいた個人情報につきましては、説明会に関する事務のために利用させていただきます、それ以外の目的には使用いたしません。

■メールでお申込みの場合は、上記項目を本文に入力の上、以下のアドレスへ送信ください。

Mail : hkd-mr-chiikisinko@ml.mlit.go.jp

【問合せ先】

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14
北海道開発局 室蘭開発建設部 地域振興対策室
担当：地域振興対策室長 木全
地域振興専門官 北村

TEL : 0143-25-7053

FAX : 0143-22-8842

北海道の人口低密度地域における農村の維持に関する基礎調査

調査目的

【背景】

◆日本創成会議・人口問題検討分科会の提言「ストップ少子化・地方元気戦略」によると、**北海道179市町村のうち116市町村は将来的に消滅のおそれ**

◆「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画」では、主として農林水産業が営まれている**人口低密度地域**では、その**魅力や特性を利用し、地域社会の活力の維持・向上を図る必要がある**とされている

【目的】

◆将来の更なる人口減少を見据え、**北海道の特色を活かした農村の魅力づくりを進め定住人口の減少抑制や交流人口の増加を促進し、農村の維持を図る**必要。そのため、本調査ではモデル地域において農村を維持し活性化する方策について検討



①モデル地域における検討

農村の維持・活性化に取り組む道内の3市町（滝川市江部乙地区、沼田町、天塩町）をモデル地域として選定し、各地域における農村の維持・活性化方策を策定するため、有識者を交えた検討会を設置し、検討

滝川市江部乙地区における検討

○地域の現状

- ・江部乙地区は「日本一の菜の花畑」及び「防風林に囲まれたりんご畑」を地域資源として「日本で最も美しい村」連合加盟
- ・担い手の高齢化、後継者不在が深刻な状況
- ・ナタネやりんごなどの特産品について、地域ブランドとして共通のアピールが図られていない状況

○策定した方策

- ・「美しい村江部乙」を持続可能にする体制づくり
- ・地域全体による地域資源の維持保全活動の実施
- ・担い手の確保及び新規就農受入れに関する仕組みづくり
- ・「美しい村江部乙」を売り出す戦略づくり
- ・地域資源を活用したグリーンツーリズムの推進



<日本一の菜の花畑>

沼田町における検討

○地域の現状

- ・「雪冷熱」を利用した雪中米、雪中椎茸等が特産品
- ・北海道ブランドであることが加工品の魅力となっているが、沼田町ブランドにまではなっていない
- ・高齢化の進展で将来的に農家数は減少し、既存農地を現在の担い手だけでは維持できないことが想定される

○策定した方策

- ・沼田産米の販売戦略を構築
- ・沼田町の特産品の販売拠点となる場の創設
- ・ファームイン受入れの強化
- ・後継者の確保に関する取組を実施
- ・新規参入希望者が沼田町に就農したくなる仕組みづくり



<「雪中米」とスノークールライスファクトリー>

調査の内容

天塩町における検討

○地域の現状

- ・天塩町の基幹産業は酪農である
- ・農家数の減少・高齢化が進み、農家戸数は今後も更なる減少が予測されている
- ・酪農に関するPRが活発にされていないため、酪農のイメージが町外に浸透していない



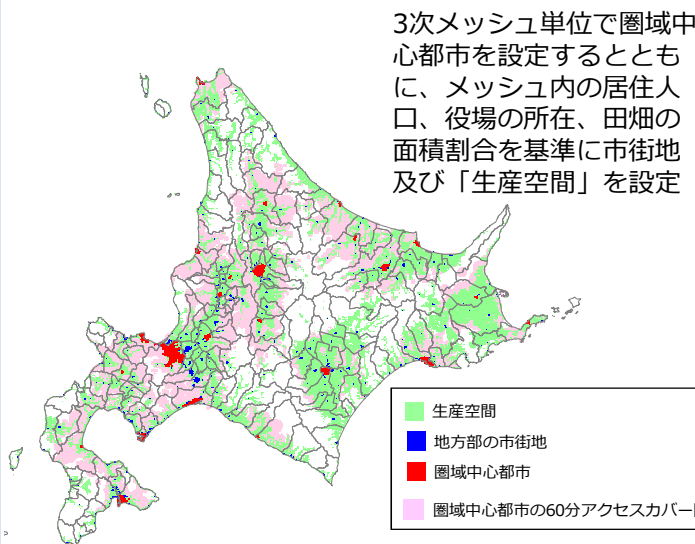
<酪農風景>

○策定した方策

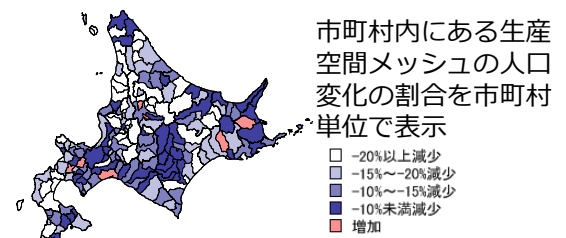
- ・地域農業と個人の将来を考える機会の創出
- ・地域のサポートで安心の第三者経営継承を推進
- ・計画的な継承を目指した研修受入制度の検討
- ・酪農イメージの発信不足を解消
- ・農産物の活用による地域の活性化
- ・都市との交流による地域の活性化

②地方部の生産空間に関する整理

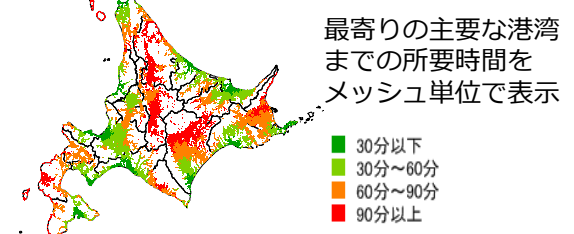
農村の維持・活性化を検討するに当たり、新たな北海道総合開発計画（平成28年3月29日閣議決定）において示された「基礎圏域」の考え方における、北海道内の主として農業・漁業に係る生産の場となる「地方部の生産空間」としての側面から分析・整理



<生産空間の人口変化>



<主要な港湾へのアクセス時間>



農村の維持・活性化に取り組もうとする地域は、それぞれ置かれている状況は様々であることから、地域類型別区分やテーマ別課題など、取り組むべき方策を検討するに当たっての視点を提示することで、状況に応じた方策や優良先進事例を各地域において参考にできるよう汎用的に整理

地域類型別区分に対応した整理

農業形態が類似する地域における取組を、農業地域類型及び営農形態の地域区分に応じて分類し、優良先進事例等を整理

▼優良先進事例の一例

【農業地域類型、営農形態】都市的地域（畑地型）、酪農
事例：廃校を活用、地域住民連携で生まれた「のぼりべつ牛乳」（登別市）



テーマ別課題に対応した整理

農村の維持・活性化に取り組もうとする場合に考えられる取組を「暮らしの基盤の維持」「農業生産活動の促進」「農村の魅力向上」の大きく3つのテーマ別に課題を分類し、優良先進事例等を整理

▼優良先進事例の一例

【テーマ】農業生産活動の促進（高付加価値化）
事例：特別栽培米の認証取得と米の輸出（山形県鶴岡市）





北海道における歴史・文化を活用した インバウンド観光の振興調査

調査の背景

北海道は近年、外国人来道者数が増加しており、2016年北海道新幹線開業や2020年東京オリンピックなど、インバウンド観光発展の好機を迎えている。インバウンド観光の更なる拡大に向けて、従来の観光資源に加え、新たな北海道の魅力創出が必要。

調査目的

北海道における独自性のある歴史・文化コンテンツを観光資源として活用したインバウンド観光需要を図ることを目的に、その可能性や活用方法などを調査する。

※本調査は、石森秀三氏（北海道博物館長）を座長とする検討委員会を設置し、アドバイスを受けつつ進めた。

1 観光資源として活用可能な北海道における 独自性のある歴史・文化コンテンツの発掘

- ①検討テーマの設定 ... 観光資源として活用可能な北海道における独自性のある歴史・文化コンテンツを抽出するに当たり、検討委員会からの提案を受け、検討テーマを設定。
- ②歴史文化コンテンツの抽出 ... 検討テーマに基づき、文化財データや有識者ヒアリングの結果を参考に、観光資源として活用可能な歴史・文化コンテンツを抽出。

検討テーマ	概要
1. 縄文・オホーツク・擦文文化	・旧石器時代以降、1万年余りの縄文文化の時代から、続縄文文化、オホーツク文化、擦文文化が終わる頃まで
2. アイヌ文化	・中世以降、現在まで続くアイヌ文化。先住民族としての独自の信仰や生活文化を守り、現在まで継承
3. 中世・近世	・鎌倉時代以降、北海道への和人文化の広がりや道南地域の繁栄
4. 開拓時代 近代化	・明治時代以降の炭鉱、鉄道、製鉄、港による北海道の急速な産業化・近代化
開拓時代 農業	・屯田兵による開拓と、北海道の風景イメージの重要な要素である農村景観の形成
開拓時代 フレンドシップのまち札幌	・アメリカ人技術者との友好的な関係構築と、対等なフレンドシップのもとに進められた開拓

2 海外における歴史・文化観光市場の構造及びニーズの把握・分析

2-1 海外媒体調査 ... 欧米豪圏・アジア圏から訪日外国人観光客数の多い国・地域を計12か国選定し、海外旅行市場に与える基礎データと日本旅行についての嗜好・観光動向のほか、旅行ガイド(ロンリープラネット他)における北海道の取り上げ方(記事内容、ページ占有率)などを調査。

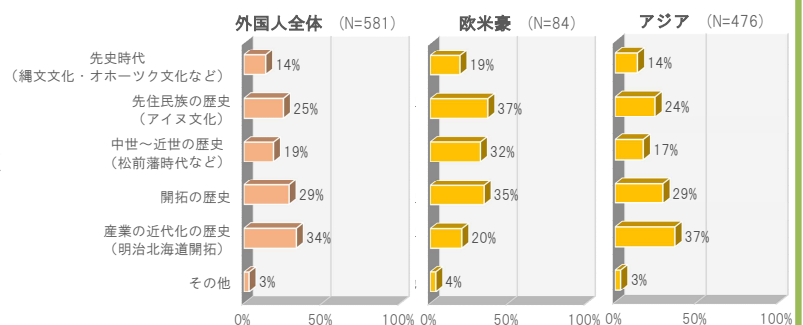
結果(抜粋)

- ・ガイドブック全体に占める北海道記事のページ占有率は英語圏よりもアジア圏のほうが高い。
- ・北海道記事に占める歴史・文化関連分野のページ占有率は英語圏のほうが高く、先住民族や縄文文化といった北海道独自の歴史・文化に着目した記事が多い。

2-2 外国人アンケート調査 ... 北海道の歴史観光を海外に向けてプロモーションすることを念頭に実施。

結果(抜粋)

- ・北海道の歴史文化に関する情報提供の前後で、歴史文化への関心度が大きく変わった。
- ・欧米豪圏・アジア圏共に歴史文化への関心は高いが、関心のある分野はそれぞれ異なる。
- ・歴史文化関連施設への訪問を日本到着後に決めている観光客が多いことから、着地での情報提供の重要性が示唆された。



北海道の歴史について関心のある分野(道内調査)

3 外国人の受入環境整備状況等についての評価及び改善方策等の整理

外国人モニターツアー ... 海外プロモーションを行う上での歴史文化テーマの訴求力、ポイント、外国人受入環境整備などの課題を把握するため、外国人モニターを採用したモニターツアーを実施した。

ロールプレイキャッチコピー “Be a Travel Guide Book Writer”

	札幌コース（11月5日）	道南コース（11月6日～8日）	道東コース（11月19日～21日）
主な訪問施設	<ul style="list-style-type: none"> 北海道大学 札幌市時計台 札幌市資料館 エドウィン・ダン記念館 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道博物館 函館市縄文文化交流センター 五稜郭タワー 函館奉行所 箱館高田屋嘉兵衛資料館 いにしえ街道 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道博物館 北炭幌内炭鉱 川村カ子トアイヌ記念館 湧別町ふるさと館JRY 道立北方民族博物館 モヨロ貝塚館
モニター内訳	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ(60代男性) ベルギー(30代男性) シンガポール(20代男性) 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ(60代男性) シンガポール(20代男性) アメリカ/カナダ(30代男性) フランス(20代女性) タイ(20代女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ベルギー(30代男性) ポーランド(30代女性) イギリス(50代男性) 中国(30代女性) ドイツ(20代男性)



モニターから寄せられた意見(抜粋)

- ・北海道は本州とさまざまな点で異なっており、従来の日本の印象とは別の新たな印象をもつと思う。
 - ・外国人とコミュニケーションを図るため使用しているコミュニケーションツールは大変有効。
- アドバイスを元に、歴史文化関連施設で広く活用可能な「外国語コミュニケーション会話集」を作成

4 歴史・文化を活用した観光メニューの創出に関する検討

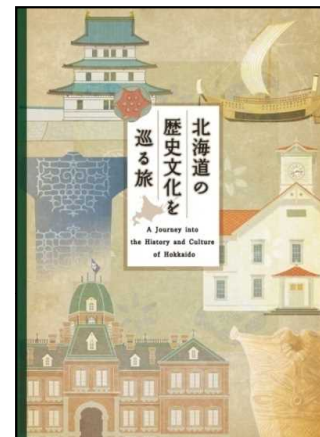
パンフレット

『北海道の歴史・文化を巡る旅』” A Journey into the History and Culture of Hokkaido”

調査1～3の結果を踏まえ、外国人に定着している日本の歴史・伝統のイメージとは異なる北海道の歴史・文化とその魅力を紹介し、観光振興に活用していただく目的でパンフレットを作成。

英語版には、日本語の翻訳ではなく、外国人が英語で作成したキャッチコピーを一部採用している。

キャッチコピー	コンテンツ代表例
自然を敬い祈り続けた北の古代人	中空土偶、常呂遺跡、北黄金貝塚など
先住民 アイヌの文化	しらいおいポロトコタン・アイヌ民族博物館、平取町二風谷アイヌ博物館、阿寒湖アイヌコタンなど
中・近世 道南の和人文	福山城(松前城)跡、いにしえ街道、五稜郭跡など
フレンドシップによる北海道開拓	北海道庁赤レンガ庁舎、札幌農学校第二農場(モデルバーン)、エドウィン・ダン記念館など
コラム1 屯田兵 コラム2 農村景観	北海道開拓の村、湧別町郷土博物館ふるさと館JRYなど
北の産業遺産	幌内炭鉱跡、旧国鉄手宮線跡、小樽運河など



日本語版 表紙

まとめ

- 北海道には本州と異なる魅力的な独自の歴史・文化コンテンツがあり、インバウンド観光資源の一つとして十分活用が可能。
- 歴史文化コンテンツの魅力を引き出すためには、各地域が連携し、テーマやストーリーを作り上げ、多彩なコンテンツを組み合わせるなどの取り組みが必要。
- 観光客のみならず、道民自身も独自性ある歴史・文化への知識を深め、コンテンツを磨き上げることがさらなる観光振興につながる。

参考情報

- ・パンフレット「北海道の歴史文化を巡る旅」 http://www.khd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/kankou_11.html
- ・「外国語コミュニケーション会話集」 <http://www.hkd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/pdf/kaiwasyu.pdf>
- ・調査報告書(概要版) http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/toukei/chousa/h27keikaku/h27_002.pdf